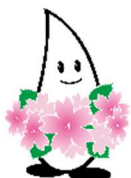


第2章 伊那市の歴史文化資源の概要

市内にはたくさんの文化財や遺跡があり、南アルプス周辺はエコパーク、ジオパークになっています。ほかにもまだたくさんの、あまり知られていない歴史文化資源がありますが、どんなものがどれくらいあるのか、表や図で見てみましょう。



1 文化財の指定・登録などの状況



市内には国、県、市がそれぞれ貴重なものと決めた指定等文化財が146件あります。どこにどんな文化財があるのか、表にまとめました。建物が一番多く、33件指定されています。

伊那市の指定等文化財は146件あり、国指定文化財が6件、国登録文化財が2件、県指定文化財が8件、県選択文化財が2件、市指定文化財が128件です。国指定文化財の内訳は、有形文化財の考古資料が2件、建造物が2件、絵画が1件、記念物の遺跡が1件となっており、半数にあたる3件が^{たかとおまち}高遠町地域にあります。

地域別に見ると、伊那地域が58件、^{はせ}高遠町地域が54件、^{はせ}長谷地域が32件、広域にわたるものが2件で、割合としては伊那地域が約40%、^{はせ}高遠町地域が約37%、^{はせ}長谷地域が約22%です。

文化財の類型別に見ると、最も多いのが有形文化財で88件、次いで記念物が43件です。有形文化財の内訳では、最も多いのが建造物の30件、次いで彫刻の17件です。石造文化財が多いことも特徴として挙げられ、12件が石造文化財に分類されていますが、彫刻の中にも石造彫刻が7件含まれます。記念物の内訳は、遺跡が22件と最も多く、植物が17件、名勝地が2件と続きます。本市には文化財保存技術の選定はありません。

表 指定等文化財の類型別件数

(単位：件)

文化財の種類			指定等の区分							合計
			国指定 ・選定	国選択	県指定	県選択	県選定	市指定	国登録	
有形文化財	建造物		2		1			25	2	30
	美術工芸品	絵画	1		0			4	0	5
		彫刻	0		1			16	0	17
		工芸品	0		1			4	0	5
		書跡・典籍	0		0			5	0	5
		古文書	0		0			4	0	4
		考古資料	2		1			6	0	9
		歴史資料	0		0			1	0	1
		石造文化財						12		12
無形文化財			0	0	0	0	0	1	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財		0		0	0		4	0	4
	無形の民俗文化財		0	0	0	2		8	0	10
記念物	遺跡		1		1			21	0	23
	名勝地		0		0			2	0	2
	動物、植物、地質鉱物		0		3			15	0	18
文化的景観			0					0		0
伝統的建造物群			0					0		0
合 計			6	0	8	2	0	128	2	146

表 国指定文化財(重要文化財・史跡)

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	遠照寺釈迦堂 附 多宝小塔	高遠町山室(遠照寺)	昭和 25.8.29	遠照寺
	熱田神社本殿 附 天覆 棟札及び建立歳記札 造営文書	長谷溝口(熱田神社)	平成 5.12.9	熱田神社
有形文化財 (絵画)	紙本墨画中観音左右竜虎図	高遠町西高遠(建福寺)	昭和 25.8.29	建福寺
有形文化財 (考古資料)	顔面付釣手形土器	荒井(伊那市創造館)	平成元.6.12	伊那市
	神子柴遺跡出土品	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.6.6	個人
記 念 物 (遺跡)	高遠城跡	高遠町東高遠	昭和 48.5.26	伊那市 ほか

表 国登録文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	高遠閣	高遠町東高遠	平成 14.9.3	伊那市
	西駒山荘石室	伊那	平成 28.8.1	伊那市

表 県指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	旧馬島家住宅	高遠町東高遠	平成 15.9.16	伊那市
有形文化財 (彫 刻)	木像金剛力士立像 (阿形像及び吽形像)	西箕輪羽広(仲仙寺)	平成 17.9.26	仲仙寺
有形文化財 (工芸品)	梵鐘	高遠町東高遠(桂泉院)	昭和 45.4.13	桂泉院
有形文化財 (考古資料)	信州の特色ある縄文土器 ()は出土した遺跡名	伊那市ほか県内 17 市町村	平成 30.9.27	伊那市、17 市町村
	内訳 顔面把手付深鉢形土器 (月見松遺跡)	荒井(伊那市創造館)	平成 30.9.27	伊那市
	顔面装飾付釣手土器 (石仏遺跡)	長谷溝口(長谷公民館)		
	香炉形土器 (坊垣外遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
	装飾絵画文土器 (金鑄場遺跡)	荒井(伊那市創造館)		
	蛇体把手付深鉢形土器 (堀遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
	大形把手付土器 (石仏遺跡)	長谷溝口(長谷公民館)		
	唐草文土器 (原遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
	唐草文土器 (原遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
	唐草文土器 (島崎遺跡)	荒井(伊那市創造館)		
	唐草文土器 (泉原遺跡)	長谷溝口(長谷公民館)		
記 念 物 (遺 跡)	御殿場遺跡	富県北福地	昭和 46.5.27	個人・伊那市
記 念 物 (植 物)	高遠のコヒガンザクラ樹林	高遠町東高遠	昭和 35.2.11	伊那市
	前平のサワラ	西箕輪吹上	昭和 37.7.12	吹上神社
	白沢のクリ	西春近白沢	昭和 40.7.29	個人

表 県選択文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
民俗文化財 (無形の民俗文化財)	山寺のやきもち踊りの習俗	山寺	昭和 48.3.30	やきもち踊り保存会
	木曽の朴葉巻・下伊那南部の朴葉餅	木曽郡 6 町村、松本市奈川、 塩尻市檜川、飯田市上村、 伊那市西箕輪、下伊那郡平谷村 阿智村、売木村	平成 13.3.15	木曽郡 6 町村、 伊那市西箕輪 ほか

表 市指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	満光寺鐘楼門	高遠町西高遠(満光寺)	昭和 36.4.1	満光寺
	小出諏訪神社本殿	西春近山本	昭和 44.11.19	小出・小出島区
	宇津木の薬師堂	長谷杉島	昭和 47.8.25	杉島区
	金毘羅神社本殿	高遠町藤澤(金毘羅社)	昭和 51.3.1	水上区
	五郎姫神社本殿	高遠町長藤(五郎姫神社)	昭和 51.3.1	栗田区
	弘妙寺須弥壇	高遠町荊口(弘妙寺)	昭和 51.3.1	弘妙寺
	七面堂	長谷非持山	昭和 51.6.1	非持山区
	池上氏の位牌堂	長谷非持山	昭和 51.6.1	非持山区
	東高遠諏訪社	高遠町東高遠(諏訪社)	昭和 55.12.1	東高遠諏訪社
	芦沢妙儀社本殿	美簗芦沢	昭和 61.1.24	子安社
	芦沢天満宮本殿	美簗芦沢	昭和 61.1.24	子安社
	蓮華寺七面堂	高遠町長藤(蓮華寺)	昭和 62.7.14	蓮華寺
	遠照寺七面堂	高遠町山室(遠照寺)	昭和 62.7.14	遠照寺
	商家池上家	高遠町西高遠	昭和 62.7.14	個人
	熱田神社舞宮	長谷溝口	平成元.5.22	熱田神社
	伊那部宿酒屋旧井澤家住宅	西町伊那部	平成 11.5.21	伊那市
	宮ノ花八幡社本殿	富県貝沼	平成 11.8.24	八幡社
	鉾持神社 本殿・赤門・透かし堀	高遠町西高遠(鉾持神社)	平成 15.10.21	鉾持神社
	貴船社本殿	高遠町藤澤(貴船社)	平成 15.10.21	貴船社
	両大島諏訪神社本殿	美簗上大島	平成 15.10.23	諏訪神社
	春近社本殿	東春近中殿島	平成 15.10.23	春近社
	野口八幡神社舞台	手良野口	平成 15.10.23	野口区
	旧上伊那図書館	荒井(伊那市創造館)	平成 20.8.27	伊那市
	白山社本殿	西春近山本	平成 23.3.8	白山社
	八幡宮本殿	上牧	平成 23.3.8	八幡宮
有形文化財 (絵 画)	中村不折筆 「卍和璞を抱いて泣く」	高遠町東高遠 (信州高遠美術館)	昭和 39.3.1	伊那市
	池上秀畝 「薄暮落雁」・「古城の驟雨」	高遠町東高遠 (信州高遠美術館)	昭和 39.3.1	伊那市
	青緑楼閣山水画	山寺(常円寺)	昭和 63.7.26	常円寺
	十六羅漢図	山寺(常円寺)	昭和 63.7.26	常円寺
有形文化財 (彫 刻)	建福寺石仏群	高遠町西高遠(建福寺)	昭和 38.1.12	建福寺
	木造薬師如来坐像	美簗笠原(阿弥陀堂)	昭和 47.4.15	阿弥陀堂
	木造持国天・多聞天立像	西箕輪羽広(仲仙寺)	昭和 49.12.20	仲仙寺
	木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像	手良野口(無量寺)	昭和 49.12.20	耕雲寺
	大聖不動明王	高遠町勝間	昭和 51.3.1	勝間区
	准胝観世音 延命地藏尊	高遠町東高遠(桂泉院)	昭和 51.3.1	桂泉院
	五輪塔 保科左源太の墓石	高遠町西高遠(満光寺)	昭和 51.3.1	満光寺
	木造地藏菩薩坐像	富県北新(地藏堂)	昭和 52.10.29	地藏堂
	木造阿弥陀如来坐像	中央(阿弥陀寺)	昭和 55.9.26	阿弥陀寺
	満光寺阿弥陀如来立像	高遠町西高遠(満光寺)	平成元.3.28	満光寺
	樹林寺千手十一面夕顔観世音菩薩立像	高遠町東高遠(樹林寺)	平成 2.12.3	樹林寺
	宗良親王御尊像	長谷溝口(常福寺)	平成 3.9.20	常福寺
	建福寺仏足石	高遠町西高遠(建福寺)	平成 4.6.29	建福寺
	小原十王像	高遠町小原(十王堂)	平成 12.11.21	小原区
	五聖像	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 14.12.20	伊那市
	六角観音供養塔	高遠町西高遠(相頓寺跡)	平成 18.1.23	満光寺

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (工芸品)	陣太鼓・鰐口	高遠町山室(遠照寺)	昭和 36.4.1	遠照寺
	鰐口	西箕輪羽広(仲仙寺)	昭和 63.7.26	仲仙寺
	雲板	山寺(常円寺)	昭和 63.7.26	常円寺
有形文化財 (書 跡)	田山花袋筆屏風	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 38.11. 1	伊那市
	阪本天山筆跡	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 40.2.5	伊那市
有形文化財 (典 籍)	文献通考	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町図書館)	平成 2.12.3	伊那市
	落原拾葉	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町図書館)	平成 11.9.24	伊那市
	希月舎文庫	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町図書館)	平成 11.9.24	伊那市
有形文化財 (古文書)	鉾持神社文書	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 元.3.28	鉾持神社
	建福寺文書	高遠町西高遠(建福寺)	平成 元.3.28	建福寺
	龍勝寺文書	高遠町勝間(龍勝寺)	平成 元.3.28	龍勝寺
	芝平山絵図	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 16.7.30	東山生産森林組合 ほか
有形文化財 (考古資料)	指圧薄手土器	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 55.12. 1	伊那市
	杏葉	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	経筒及び和鏡	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	緑釉陶器皿	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	古瀬戸灰釉把手付水注	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	和同開珎	荒井(伊那市創造館)	平成 14.4.25	伊那市
有形文化財 (歴史資料)	高藩探勝	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 20.1.30	伊那市
有形文化財 (石造文化財)	円通寺の石仏二体	長谷市野瀬(円通寺)	昭和 47.3.1	円通寺
	中尾辻の石仏群	長谷中尾	昭和 49.3.1	中尾区
	宝篋印塔(洞泉寺)	美簗下川手(洞泉寺)	昭和 61.1.24	洞泉寺
	石造双体道祖神	東春近下殿島土蔵	昭和 61.1.24	土蔵
	石造准胝観音菩薩	東春近田原(薬師庵)	昭和 61.1.24	薬師庵
	非持山馬頭観音	長谷非持山(七面堂)	平成元.5.22	非持山財産区
	熊の森城主一瀬越前守直忠の墓碑	長谷市野瀬	平成元.10.27	市野瀬区
	一瀬勘兵衛の母墓石	長谷市野瀬	平成元.10.27	円通寺
	非持領主上嶋氏の宝篋印塔	長谷非持	平成 4.12.25	非持区
	熊の森宝篋印塔	長谷市野瀬	平成元.5.22	熊野宮下氏子
	宇津木西国三十三観音	長谷杉島(薬師堂)	平成 11.7.21	杉島区
	宝篋印塔(黒河内)	長谷黒河内	平成 17.3.24	大揚寺
無形文化財 (音 楽)	高遠ばやし	高遠町西高遠	昭和 40.2.5	高遠ばやし保存会
民俗文化財 (有形の民俗文化財)	仲町屋台	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 55.12.1	伊那市
	貴船社屋台(お船)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 17.8.22	伊那市
	貴船社神輿	高遠町藤澤(貴船社)	平成 17.8.22	貴船社
	羽広の絵馬	西箕輪羽広(考古資料館)	平成 17.11.22	仲仙寺
民俗文化財 (無形の民俗文化財)	サンヨリヨリ	美簗両川手(天伯社)・ 富県桜井(片倉天伯社)	平成 6.1.28	美簗上・下川手区、 富県桜井区・北新区 北林
	諏訪形の御柱祭と騎馬行列	西春近諏訪形	平成 9.1.27	諏訪形区
	貴船神社子供騎馬行列	高遠町藤澤	平成 10.4.22	荒町
	中尾歌舞伎	長谷中尾	平成 10.6.24	中尾歌舞伎保存会
	芝平山絵図虫干し行事	高遠町上山田芝平、 藤澤 御堂垣外、荒町、北原、 長藤 栗田、四日市場	平成 16.7.30	東山生産森林組合 ほか
	羽広の獅子舞	西箕輪羽広	平成 17.11.22	羽広区

種 別	名 称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
民俗文化財 (無形の民俗文化財)	青島の千社参り	旧伊那市区域及び 旧高遠町区域の一部	平成 21.1.28	青島区
	孝行猿の民話	長谷市野瀬	昭和 47.8.25	－
記 念 物 (遺 跡)	藤沢城跡	高遠町藤澤	昭和 36.4.1	御堂垣外区
	絵嶋の墓	高遠町長藤(蓮華寺)	昭和 36.4.1	蓮華寺
	伊澤修二先生の生家	高遠町東高遠	昭和 43.5.30	伊那市
	月見松遺跡	小沢	昭和 45.11.21	個人
	検校塚	長谷非持	昭和 47.8.25	非持区
	小松氏先祖の墓	長谷浦	昭和 48.4.30	浦区
	経塚原の経塚と舞台	長谷杉島	昭和 48.4.30	杉島区
	御山の遺跡	長谷溝口	昭和 49.3.1	常福寺
	八人塚	長谷黒河内	昭和 49.4.30	黒河内区
	山田城跡	高遠町下山田	昭和 51.3.1	下山田区
	五郎山	高遠町勝間	昭和 55.12.1	勝間区
	高遠領分杭	小沢	昭和 59.6.17	小沢区
	蟻塚城跡	美簗笠原	平成 2.3.1	笠原区 ほか
	荒井富士塚	荒井	平成 2.3.1	荒井区・荒井神社
	小出城跡	西春近小出一区	平成 2.11.1	個人
	絵島囲み屋敷跡	長谷非持	平成 3.5.20	伊那市
	諏訪形の猪垣跡	西春近諏訪形	平成 6.1.28	個人
	坂下の辻	山寺	平成 8.6.26	常円寺・坂下区
	溝口村・非持村の梵天岩(境岩)	長谷非持・溝口	平成 9.6.25	伊那市
	大徳王寺城趾	長谷溝口	平成 18.3.9	個人
記 念 物 (名勝地)	遠照寺亀島庭園	高遠町山室(遠照寺)	平成元.3.28	遠照寺
	南郷峠の松並木	長谷溝口	平成 10.6.24	南郷組
記 念 物 (植 物)	伯先桜	西町伊那部	昭和 44.11.19	個人
	タマサキフジ	富県南福地	昭和 44.11.19	竹松・阿原部落
	ヤエヤマツツジ	富県北福地(富県小学校)	昭和 44.11.19	伊那市
	久保田のアカマツ	富県上新山	昭和 47.4.15	個人
	薬師堂のシダレザクラ	富県北新	昭和 47.4.15	今泉部落
	円座松	長谷非持	昭和 47.8.25	非持区
	トリアシカエデ	高遠町藤澤	昭和 51.3.1	個人
	仲仙寺周辺の植物群落	西箕輪羽広(仲仙寺)	平成 8.6.26	仲仙寺
	溝口のカラカサ松	長谷溝口	平成 9.6.25	溝口生産森林組合
	山寺の白山社八幡社合殿のケヤキ	山寺	平成 12.3.15	白山社八幡社合殿
	神明社荒神社合殿のケヤキ	狐島	平成 17.11.22	神明社荒神社合殿
	高鳥谷のマツハダ	富県南福地	平成 17.11.22	南福地区
	上新山宮下のサワラ	富県上新山宮下	平成 17.11.22	北原氏子
記 念 物 (遺 跡) (植 物)	市野瀬古城址・城山の松	長谷市野瀬	昭和 47.8.25	市野瀬区
記 念 物 (植 物) 有形文化財 (工芸品)	桑田薬師堂の枝垂桜・香時計	長谷溝口(薬師堂)	昭和 47.8.25	溝口区

※地域を定めない天然記念物は、この一覧に含まれません。

2 指定等文化財の特徴

※本文では、指定等文化財を太字で表記しています。

(1) 有形文化財

① 建造物

市内に30件(国指定2件、県指定1件、市指定25件、国登録2件)ある建造物は、類型別件数で最も多くを占めます。

国指定の重要文化財建造物は2件とも社寺建築です。高遠町山室にある**遠照寺釈迦堂**は、長野県内における日蓮宗最古の堂宇で、室町時代後期に建てられました。和様を主としています。天竺様と唐様を加えており、京都以東ではほとんど見られない様式です。来迎壁に天文18年(1549年)の墨書があるほか、須弥壇の裏板に天文7年(1538年)の墨書がみられます。また、内陣に安置された**多宝小塔**は、お堂の建築以降に造られたもので、県内の多宝塔の中では最も古く、文亀2年(1502年)に造られたものです。この**多宝小塔**を手掛けたのは、高遠鉾持在住の番匠池上氏の一門で、彼らは長谷や高遠に居を構え、甲斐の武田氏に仕えたほか、身延山久遠寺や日蓮宗寺院の建築にも代々関わった有能な大工集団でした。

宝暦13年(1763年)に完成した長谷溝口の**熱田神社本殿**もまた、池上氏一門の流れを汲む棟梁の高見善八(池上善八)が造営した建物で、茅葺屋根の入母屋造りの覆屋(天覆)の中にあります。随所に唐獅子や龍などの架空の動物や、唐子遊び、七福神などの彫物を飾り、彩色豊かで華やかな意匠を見せます。

県指定の建造物は1件で、高遠城下にある武士住宅の**旧馬島家住宅**です。高遠藩に眼科医として抱えられた馬島家が、江戸時代の天保年間に自己資金で建てたものです。診察のための調薬室を備えているのが特徴で、藩医の住宅として貴重な建造物です。

市指定の建造物は25件あり、そのうちの22件が社寺建築です。社寺建築の指定文化財が多いのが伊那市の特徴です。

江戸時代後期に活躍した諏訪立川流の建築が多くあり、立川和四郎富昌が手掛けた西春近の**小出諏訪神社本殿**や、高遠町藤澤の**金毘羅神社本殿**、富昌の息子富重が手掛けた西春近山本の**白山社本殿**、小口直四郎による伊那(竜東)上牧の**八幡宮本殿**があります。

また、市内には三河系の大工が手掛けたものもあり、三河国長篠(現在の愛知県新城市)の大工、菅沼半兵衛定次が手掛けた高遠町西高遠の**満光寺鐘楼門**や、有賀吉左衛門重栄が手掛けた高遠町藤澤の**貴船社本殿**、重栄の息子の重房が手掛けた長谷杉島の**宇津木の薬師堂**などがあります。

このほか、江戸時代の宿場町の建物として、伊那(竜西)西町に遺る**伊那部宿酒屋旧井澤家住宅**や、高遠城下の町家**商家池上家**があり、昭和5年(1930年)に伊那町に建てられた近代建築の**旧上伊那図書館**は、鉄筋コンクリート建築の先駆けとなった黒田好造設計の建物として知られています。

国の登録有形文化財は2件あり、**西駒山荘石室**、**高遠閣**のいずれも近代建築です。



金毘羅神社本殿 (高遠町藤澤)



宇津木の薬師堂 (長谷杉島)

② 絵画

市内にある5件のうち、1件が国指定の重要文化財で、4件が市の指定文化財です。

国の重要文化財に指定されている**紙本墨画中観音左右竜虎図**は、高遠町西高遠の**建福寺**が所蔵する三幅対の大幅で、桃山時代から江戸時代に活躍した狩野興以が描きました。中央に白衣観音、左右に竜と虎を配し、静動の調和が感じられる作品です。

市指定の4件は、いずれも近代の画壇を牽引した伊那市ゆかりの作家の手によるものです。洋画が1件、日本画が2件あります。

伊那(竜西)山寺の常円寺が所蔵する**十六羅漢図**と**青緑楼閣山水画**は、小沢村(現在の伊那市小沢)出身の南画家、小坂芝田が描いたものです。**池上秀畝「薄暮落雁」**・**「古城の驟雨」**は、日本画壇の新たな時代を築いた池上秀畝の作品で、「薄暮落雁」には、日が沈みゆく中、芦辺から雁が飛び立つ風景が墨画で描かれています。



池上 秀 畝「薄暮落雁」
(信州高遠美術館蔵)

③ 彫刻

市内にある17件のうち、1件が県宝で16件が市の指定文化財です。

西箕輪羽広の仲仙寺仁王門内にある県宝、**木造金剛力士立像(阿形像及び吽形像)**は、像高255cmの檜材を用いた寄木造で、体は朱く彩色されています。室町時代の京都の仏師、七条大蔵康忠が当地に来て制作したもので、当時、主流仏師が地方で制作にあたることは珍しく、日本彫刻史における意義が極めて高い作品です。

16件ある市の指定文化財の彫刻は、9件が木造彫刻で7件が石造彫刻です。木造彫刻のうち、7件が仏像彫刻で、鎌倉時代から江戸時代まで各時代の特徴を示すものが文化財に指定されています。

鎌倉時代作の仏像としては、仲仙寺の**木造持国天・多聞天立像**、手良野口の**無量寺**にある**木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像**、高遠町西高遠の**満光寺阿弥陀如来立像**があり、満光寺阿弥陀如来立像は慶派の仏師の作とされています。

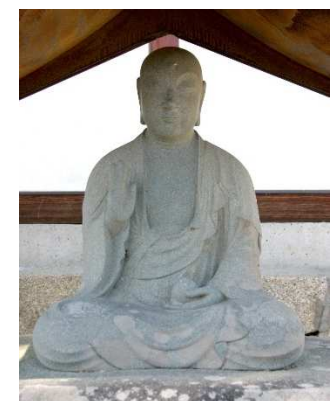
美簫笠原の阿弥陀堂にある**木造薬師如来坐像**は、南北朝時代の暦応3年(1340年)に、京都の大仏師、法印性慶が作ったもので、下地にはこの時期に流行した截金文様や盛上彩色といった装飾の跡がみられます。

五聖像は、江戸時代に高遠藩の藩校進徳館の聖廟内に祀られた木像で、儒教の祖である孔子やその弟子4人の姿を刻したものです。当時の最高学府であった江戸の昌平坂学問所にある聖像を模して造り、領民たちが藩主に献上したもので、藩校ならではの指定文化財です。

石造彫刻は7件中5件が高遠石工の優品で、全て高遠町地域にあります。中でも、名工と呼ばれた守屋貞治の作品が複数指定されており、高遠町勝間の**大聖不動明王**や高遠町東高遠桂泉院の**准胝観世音 延命地藏尊**のほか、**建福寺石仏群**にも貞治の作品が44体含まれています。いずれ



木造薬師如来坐像
(美簫笠原 阿弥陀堂)



建福寺石仏群のうち
守屋貞治作 願王地藏尊
(高遠町西高遠 建福寺)

も近隣から切り出した青石(輝緑岩)で造られており、顔の表情や衣文の線の流れは、石とは思えないほど緻密で柔らかな立体表現になっています。

④ 工芸品

市内にある5件のうち、1件が県宝、4件が市の指定文化財です。5件中3件が戦国時代、天正10年(1582年)の高遠城の戦いに関わるものです。

桂泉院にある県宝の梵鐘は、織田信忠が行軍途中に開善寺(現在の飯田市)から奪い取り、高遠まで引きずってきた鐘です。鋳製で引きずった際の擦り傷が残ります。

市の指定文化財である遠照寺の陣太鼓・鰐口や常円寺の雲板も、桂泉院の梵鐘と同様に織田軍が各地の寺社から奪ってきたものです。これらの鳴り物を鳴らしながら高遠城に進軍してきた織田軍が、戦後に奉納したものと言われています。



雲板
(伊那(竜西)山寺 常円寺)

⑤ 書跡・典籍

書跡・典籍の5件全てが市の指定文化財で、いずれも高遠町地域にあります。

2件ある書跡のうち、田山花袋筆屏風に書かれた一首「たかとほは 山裾のまち古きまち ゆきあふ子等のうつくしき町」は、地域で最も愛されている歌です。

阪本天山筆跡は、高遠藩学の祖と呼ばれた阪本天山が、高遠を離れ、大坂へ出発する際の心境を漢詩にし、邸内の稲荷社に奉納したものです。「束縛の時が過ぎたので、俗世のわずらわしさから逃れて、我が道を行くことにした」と詠まれています。

典籍の菰原拾葉、希月舎文庫は、高遠藩に仕えた儒学者の中村元恒と元起父子が所蔵していたものです。菰原拾葉は、全150巻に及ぶ郷土文献の集大成で、中村父子が各地で収集した文献を校訂し、再編集したものです。希月舎文庫は、阪本天山や中村父子らの自著や写本などで506冊を数えます。

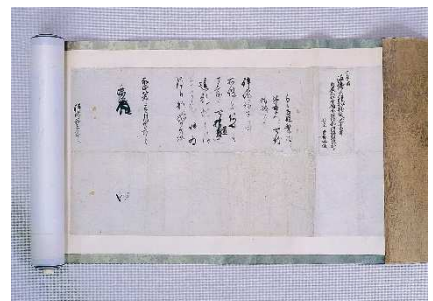


田山花袋筆 屏風
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

⑥ 古文書

古文書4件は、全て市の指定文化財です。鉾持神社文書は、戦国時代から江戸時代初期の領主が発給した8点の文書を1巻の巻子に仕立てたものです。その中にある永正8年(1511年)に高遠満継が鉾持弥宜所に出した文書は、市内で最も古い史料です。

同じく戦国時代から江戸時代初期に領主を務めた武田勝頼や織田信忠、勝斎、岩崎重次、保科正直などが建福寺に出した文書をまとめたものが、建福寺文書です。2巻に14点の古文書がまとめられています。



鉾持神社文書 高遠満継書状
(鉾持神社所蔵
伊那市立高遠町歴史博物館寄託)

⑦ 考古資料

市内に9件ある考古資料は、2件が国指定の重要文化財、1件が県宝、6件が市の指定文化財です。いずれも上伊那地域、また伊那谷でも出土事例の少ない貴重な資料です。

国の重要文化財に指定されている石器、**神子柴遺跡出土品**は、旧石器時代から縄文時代に遷り変わる1万5千年前のものです。大型の木の葉形・柳葉形の神子柴型尖頭器と、大型で刃部が磨かれた神子柴型石斧は「神子柴系石器群」と呼ばれ、中部高地を中心に全国に広がっています。**顔面付釣手形土器**は、富県にある御殿場遺跡内で、縄文時代中期後葉の住居址の床面から完形の状態で見つかりました。女神の顔が付く釣手土器といった特別な造形は、長野県の中・南信地域を代表する祭祀に用いられた土器です。

県宝の考古資料は、**信州の特色ある土器**の1件で、10点の土器が指定されています。縄文文化が栄えていた縄文時代中期中葉から後葉を代表する土器で、当時の優れた土器制作技術と世界観を物語る資料です。

市指定の考古資料は6件あります。伊那(竜西)西町の伊勢並古墳群の一つ、狐塚南古墳から出土した**杏葉**は、馬の飾りで、全体に金メッキが施されていたとみられ、権力者だけが持てるものでした。手良の下手良中原遺跡から出土した**和同開珎**は残存状況が良く、伊那谷では2例目の発見となる貴重なものです。**経筒及び和鏡**は、西春近の下牧で昭和10年代に出土した経筒1点、和鏡4点です。平安時代末から鎌倉時代初期のものとみられ、市域の経塚の様相を具体的に知ることができ資料となっています。



信州の特色ある土器
原遺跡出土 深鉢形土器
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

⑧ 歴史資料

指定等文化財の歴史資料は、市の指定文化財1件のみです。**高藩探勝**は、長さ約10mの卷子3本で構成される絵巻物で、寛保3年(1743年)に高遠藩主内藤頼郷の命で作られました。領内52か所の景勝地を描いており、当時の高遠領内の風景や人々の生活がうかがえる好資料です。

⑨ 石造文化財

石造文化財が多い伊那市では、市の指定文化財に独自の類型として、石造文化財を設けており、12件の指定文化財があります。そのうちの5件が、高遠石工の名工の作品です。長谷市野瀬の**円通寺の石仏二体**は守屋貞治の作品で、美簗の洞泉寺にある**宝篋印塔(洞泉寺)**と長谷杉島の**宇津木西国三十三観音**は、貞治の弟子の**渋谷藤兵衛**が手掛けた作品です。**東春近下殿島の石造双体道祖神**と東春近田原の**石造准胝観音菩薩**は、下殿島出身の**小笠原政平**が手掛けた作品で、顔の頬骨が張っているといった政平の作風の特徴がよく表れています。

12件の石造文化財のうち、9件は長谷地域にあり、地域の有力者に関わる墓石や宝篋印塔が多くあります。市野瀬の**熊の森城主一瀬越前守直忠の墓碑**や**一瀬勘兵衛の母墓石**、**非持の非持領主上嶋氏の宝篋印塔**などがあります。



一瀬勘兵衛の母墓石
(長谷市野瀬 円通寺)

(2) 無形文化財

無形文化財は、市の指定文化財 1 件です。**高遠ばやし**は、鉾持神社の祭礼の際に、神輿や屋台の巡行に合わせて演奏されたお囃子で、江戸時代から続いています。一説には高遠城下の商人が京都で習った囃子を持ち帰ったものと伝わり、横笛、三味線、鼓、大皮、太鼓、胡弓などが用いられます。城下の町内ごとに演奏する曲目が異なり、行きの行列では静かでゆっくりとした曲調の「本囃子」、帰りは賑やかでテンポの速い「帰り囃子」が演奏されます。

(3) 民俗文化財

① 有形の民俗文化財

4 件の有形の民俗文化財は、全て市の指定文化財で、信仰に伴うものです。

貴船社屋台(お船)は、**貴船社神輿**とともに伊那市高遠町藤澤の貴船社に伝わったもので、いずれも江戸時代末期に造られたものです。市指定の無形民俗文化財である**貴船神社子供騎馬行列**とともに、4 月の祭礼行列に用いられ、行列の先頭に神輿、最後尾に 2 階建てのお船が曳かれました。屋台をお船の形にして曳き回すのは、長野県の南信地域では珍しい形式です。



貴船社屋台(お船)
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

羽広の絵馬は、仲仙寺に奉納された絵馬で、馬の健康安全を願って参詣者が奉納したものです。文久 2 年(1862 年)に木曾の馬持ちである千村勘兵衛が奉納した「千匹絵馬」などの馬絵のほか、算額や武者絵など合計 13 点が市の指定文化財になっています。

② 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、県選択の無形民俗文化財が 2 件、市指定の無形民俗文化財が 8 件あります。

県選択の無形民俗文化財は、**山寺のやきもち踊りの習俗**と**木曾の朴葉巻・下伊那南部の朴葉餅**の 2 件です。**山寺のやきもち踊りの習俗**は、毎年 4 月に行われるユーモラスな行事で、羽織袴姿の氏子たちが、白山社八幡社合殿の境内で輪になって歌いながら踊り、踊りが終わる合図とともに、一斉に走り出し、鳥居の外へ逃げ出します。鳥居を出るのが最後になった人が、厄を引き受け、「役持ち(地域の世話役当番)」になります。

市指定の無形民俗文化財は 8 件あり、そのうち川と密接に関わる行事が 2 件あります。**サンヨリコヨリ**は、毎年 8 月 7 日に美簗の上川手下川手の天伯社と、三峰川対岸の富県桜井の天伯社で行われる行事です。美簗の天伯社に青竹の七夕飾りを持った子どもたちが集まり、円陣を組み「サンヨリコヨリ」と唱えながら円の中央にいる鬼役の周りを回ります。3 回回り終わると、子どもたちは一斉に円の中央に向かって走り、鬼を七夕飾りで滅多打ちにします。鬼は慌てて円の外へ逃げ出すといった一連の流れを 3 度繰り返します。その後、神輿行列を組んで三峰川を渡り、富県桜井の天伯社でも同様のことを行います。類例のない珍しい行事です。**青島の千社参り**は、三峰川の氾濫に悩まされてきた美簗青島の人々が、地域の安全を願って始めた行事で、毎年 7 月 20 日前後の日曜



あおしま せんじゃまい
青島の千社参りで
奉納された千社札

日に、全戸が参加して行われます。隣組ごとにくじで担当地区を決め、「千社参り」と刷られた千枚のお札を市内各地の寺社や石造物に奉納します。

騎馬行列の指定物件は2件あり、**諏訪形の御柱祭と騎馬行列**は、西春近諏訪形の諏訪神社で寅と申の年に行われます。市内に諏訪神社は何か所もありますが、御柱祭を行うのは、この諏訪形の諏訪神社と富県南福地の諏訪神社の2か所のみです。この祭に合わせて奉納されるのが騎馬行列で、里曳きと建御柱に先立って地区内を練り歩きます。江戸時代初期から続く**貴船神社子供騎馬行列**は、高遠町藤澤の貴船神社の祭礼に伴う行列で、子どもだけで騎馬行列を構成する珍しいものです。



すわがた きばぎょうれつ
諏訪形の騎馬行列
(西春近諏訪形)

芝平山絵図干し行事は、毎年7月15日に行われます。江戸時代に起こった山の境界争いの判決内容が描かれた絵図、**芝平山絵図**(市指定の有形民俗文化財)を関係者が確認する行事で、6つの集落(高遠町上山田芝平、高遠町藤澤の御堂垣外、荒町、北原、高遠町長藤の栗田、四日市場)の総代が集まり、封印された木箱の中から大絵図と、芝平山の張子模型を取り出し、虫干しをします。山の利用権を守る大切な行事として伝えられてきたものです。



しびらやまえ ずぼ
芝平山絵図干し行事
(高遠町上山田芝平・藤澤・長藤)

羽広の獅子舞は400年の伝統があると伝えられ、毎年1月15日に仲仙寺の本堂(観音堂)で舞われます。雄獅子と雌獅子の2頭による舞い合わせが最大の特徴で、雄雌が一緒に舞う獅子舞は、全国的にも珍しいものです。また、舞方、囃方(笛・太鼓)とも雄雌で異なり、それぞれ別のお囃子に合わせて舞う独特のものです。

また、長谷中尾に江戸時代から続く農村歌舞伎、**中尾歌舞伎**も市の指定無形民俗文化財です。

(4) 記念物

① 遺跡

市内に23件ある遺跡は、国指定が1件、県指定が1件、市指定が21件あります。

国の史跡である**高遠城跡**は、三峰川と藤沢川の合流点に近い河岸段丘上に築かれた平山城で、本丸を囲むように二ノ丸、南曲輪、三ノ丸などの曲輪が配置され、空堀や土塁が遺ります。三ノ丸には、江戸時代の藩校進徳館の建物が遺されています。

県の史跡である**御殿場遺跡**は、国指定重要文化財の**顔面付釣手形土器**が出土した遺跡です。縄文時代の住居址は16軒見つかっていますが、調査された場所は遺跡の一角に過ぎず、その範囲は東側の山麓まで大きく広がっていると考えられています。市内最大級の縄文時代集落遺跡です。

市の史跡は伊那地域に7件、高遠町地域に5件、長谷地域に9件あり、縄文時代から江戸時代まで、様々な遺跡があります。

月見松遺跡は天竜川右岸を代表する縄文時代の大集落遺跡です。3回にわたる発掘調査で縄文時代の住居址107軒が見つかっており、県宝に指定されている**顔面把手付深鉢形土器**が出土しました。

長野県内の中世城館跡約1,200城のうち、95城がある伊那市は、突出して山城、館跡の数が多い

地域といえます。それらの中でも、**藤沢城跡**、**山田城跡**、**蟻塚城跡**、**小出城跡**、**市野瀬古城址**などが市の史跡になっています。**藤沢城跡**は、諏訪と伊那を結ぶ杖突峠と金沢峠の道の分岐点にあり、**蟻塚城跡**は、伊那と高遠町を結ぶ俎板峠と山麓を通る古道が諏訪方面に続く場所にあります。古くからの交通の要衝であるため城館跡が多いといえます。

経塚原の経塚と舞台は、長谷杉島と岩入を結ぶ断崖上の道中にあり、難所を無事に通るための祈りの塚と考えられています。伊那(竜西)荒井にある**荒井富士塚**は、中世に始まった富士信仰のために造られた人工の山で、元禄3年(1690年)にはすでにありました。伊那(竜西)山寺、坂下にある**坂下の辻**からは、伊那街道、杖突街道、権兵衛街道が延びており、はびろ道の起点にもなっています。西箕輪の仲仙寺まで54ある丁石の一丁目があり、これらは、かつての信仰を伝える遺跡です。

西春近にある**諏訪形の猪垣跡**は、イノシシやシカによる農作物等への被害を防ぐため、土塁と木柵を造ったものです。先人が生活を守るために自然とどのように闘ったのか伝える遺跡です。



山田城跡 (高遠町下山田)



荒井富士塚 (伊那(竜西)荒井)

② 名勝地

指定等文化財の名勝地は2件あり、2件とも市の指定文化財です。

遠照寺亀島庭園は枯山水の庭園で、中央に34個の石を組んで亀島が表現されています。本堂と庫裏の間の中庭にあり、四方から鑑賞できるように造られています。長谷溝口にある**南郷峠の松並木**は、樹齢100年を超える30本余りのアカマツ並木で、南郷集落の上方の峠の尾根筋にあります。峠で一休みする人々は皆、この美しい松並木の景観に感じ入ったといいます。



遠照寺亀島庭園
(高遠町山室 遠照寺)

③ 植物

指定等文化財の植物は、県の指定文化財が**高遠のコヒガンザクラ樹林**、**前平のサワラ**、**白沢のクリ**の3件、その他に市の指定文化財が13件あります。

高遠のコヒガンザクラ樹林は、高遠城址公園内にあります。指定地一帯には、タカトオコヒガンザクラが約1,500本植えられており、古いものでは明治時代に植えられた樹もあります。単一種で構成する樹林としては珍しく、春には小ぶりで赤みの強い花が一気に咲く姿は壮観です。

西箕輪吹上の吹上神社境内にある**前平のサワラ**は、推定樹齢約1,000年、目通りで直径約2.5mの巨木で、サワラとしては長野県内で一番の大きさです。西春近白沢にある**白沢のクリ**は、白沢山崩れの扇状地の上に植えられたクリです。樹齢300年以上と言われ、通常より大きく艶のある実をつけます。

市の文化財に指定されている植物は多種に及びます。サクラは富県新山の**薬師堂のシダレザクラ**と、西町伊那部にある**伯先桜**で、いずれも樹齢150年以上の古木です。

新変種として他に例がなく、植物学上貴重なものが**タマサキフジ**と**トリアシカエデ**です。富県南福地にある**タマサキフジ**は、花は小型で球状に膨らみ、通常のフジの花のように開くことはありません。**トリアシカエデ**は高遠町藤澤水上^{みずかみ}の山中にあり、葉の裂け目が深く切れ込んでいて、鳥の足のように見えることからその名が付きました。

マツの指定木は、富県上新山^{かみにいやま}にある**久保田のアカマツ**、長谷非持^{えんぎまつ}の**円座松**、長谷溝口の**カラカサマツ**の3件です。長谷非持の**円座松**は、非持の山中にしかない種類の古木のマツで、12本が群生しています。



タマサキフジ（富県南福地）

(5) その他

伊那市の指定文化財の中には、2種類の類型で1件の文化財を構成するものがあります。

長谷市野瀬にある**市野瀬古城址・城山の松**^{いちのせこじょうし じょうやま}は、記念物の遺跡と植物で構成されており、長谷溝口の**桑田薬師堂の枝垂桜・香時計**^{くわたやくしどう しだれざくら こうどけい}は、記念物の植物と有形文化財の工芸品で構成されています。

※これらの複合物件は、表「指定等文化財の類型別件数表」では、それぞれの類型に加えています（例えば、「市瀬古城址・城山の松」は、遺跡で1件、植物で1件としています）。



市野瀬古城址・城山の松
(長谷市野瀬)

3 未指定の歴史文化資源の状況



伊那市には、先ほど紹介した指定等文化財のほかにも、指定されていない歴史文化資源がたくさんあります。その数、指定等文化財の700倍もあります。どんな歴史文化資源があるのでしょうか。

未指定の歴史文化資源に関して、伊那市では令和6年(2024年)3月時点で43,227件、点数にして119,453点を把握しています。伊那市教育委員会生涯学習課では一覧表を作成し、その一部は調査票として詳細をまとめ、リスト管理をしています。

これらの把握にあたっては、市内小中学校や博物館施設、図書館などの所蔵品のほか、今まで伊那市が取り組んできた調査の成果(第4章で後述)を取り入れました。

現時点では0件となっているものは、調査が進んでいないために正確な点数が把握できていないことを示しています。

類型別の点数を見て、「書跡・典籍」や「歴史資料」の点数が多い理由として、高遠藩校進徳館から受け継いだ漢籍や和書などの典籍が多数あること、伊那市創造館や伊那市立高遠町歴史博物館の収蔵資料に「書跡・典籍」や「歴史資料」が多いことが挙げられます。また、「絵画」が多いのは、信州高遠美術館の収蔵資料に「絵画」が多いため、「民話・伝承」が多いのは、全市域で行った地名調査の際に調査が進んだことによるものです。

そのほかに点数が多い類型として、「古文書」や「石造物」、「動物・植物・地質鉱物」が挙げられますが、高遠藩に関わる古文書(特に武家文書)や高遠石工のふるさとに遺る石造物、戸台の化石など、地域の歴史的背景を踏まえてこれまでに取り組んできた調査収集の成果が、点数の多さにつながっています。

また、民俗資料として把握されている歴史文化資源が多数ありますが、これらは昭和40年代から50年代にかけて行われた民俗資料調査を経て、当時収集された資料が学校資料室や民俗資料館に受け継がれてきたものです。このように、過去の取組が現在の歴史文化資源の保存につながっている状況を踏まえ、今後も調査を継続し、歴史文化資源の把握に努めていきます。

表 未指定の歴史文化資源の類型別件数・点数

(令和6年(2024年)3月時点)

歴史文化資源の種類			件数	点数
有形文化財	建造物		312	315
	美術 工 芸 品	絵画	1,452	1,599
		彫刻	79	81
		工芸品	601	689
		書跡・典籍	2,130	28,103
		古文書	1,346	16,594
		考古資料	325	1,244
		歴史資料	9,197	25,325
		石造物	9,527	9,647
無形文化財			4	4
民俗文化財	有形の民俗文化財		7,613	13,275
	無形の 民俗 文化財	食文化	8	8
		生活文化	57	57
		民話・伝承	1,395	1,395
記念物	遺跡		64	130
	名勝地		0	0
	動物・植物・地質鉱物		253	12,123
文化的景観			1	1
伝統的建造物群			0	0
文化財の保存技術			0	0
埋蔵文化財			487	487
地域の特産品			0	0
自然景観			0	0
地名			8,376	8,376
屋号			0	0
合計			43,227	119,453

4 未指定の歴史文化資源の特徴

(1) 有形文化財

旧伊那市域の8地区を対象に民家調査や神社の建築調査を行っており、これらの調査で312件の建造物を把握しています。近世社寺建築は約60件あり、古いものでは寛文年間から延宝年間(1661年～1681年)頃の富県上新山の明神社本殿や、享保年間頃(1716年～1736年)の美簗下川手の御社宮司社本殿があります。伊那(竜西)横山の春日社にも古い社殿が複数あり、延宝年間(1673年～1681年)頃の本殿や、元禄年間(1688年～1704年)の天神社があります。

民家は江戸時代の農家建築があるほか、高遠町西高遠の旧中村家住宅のような町家建築や、武士住宅である読書楼などがあります。

また、伊那(竜西)の荒井や坂下、伊那(竜東)中央には、昭和20年代から30年代に造られた看板建築の建物が複数あります。

1,452件を超える絵画のうち、1,100件余りが信州高遠美術館で所蔵する明治時代以降の近代絵画作品です。伊那市立高遠町歴史博物館が所蔵する絵画は、江戸時代から明治時代に描かれたものが多く、高遠藩主内藤清枚が描いた「鶉」や「竹にはしぶと」といった花鳥画や中村不折や池上秀畝の日本画、雁を好んで描いた長尾無墨の「江雁之絵」などが含まれます。

2,000件を超える書跡・典籍のうち、藩校進徳館から受け継いだ漢籍や和書は、高遠藩進徳館蔵書本として1件で数えられていますが、その内訳点数は6,350点に及びます。同様に、岩崎家文庫や馬島家文庫といった高遠藩士の家に伝わった漢籍や和書も、1件の内訳点数が多くあります。伊那市立高遠町図書館や伊那市立高遠町歴史博物館で数多く所蔵する古文書は、江戸時代の大名資料や高遠藩士に関わる武家文書が多く、高遠藩主内藤家の「内藤家資料」は特筆すべき資料です。

考古資料は325件、1,244点あり、市で行った発掘調査の出土品もありますが、上伊那教育会が収集した資料、小中学校の資料室に展示してある資料なども把握しています。それらの中には大正時代に出版された著名な書籍にも掲載されている土器・石器・鉄器も含まれており、非常に貴重な資料が遺されています。

9,000件を超える歴史資料の多くは、博物館施設の収蔵資料で、あらゆる分野のものが含まれています。写真資料も多くあり、明治時代や大正時代に撮影された市内の風景や人物、行事の様子をはじめ、昭和、平成に至るまでの数多くの写真が保存されています。

石造物は、全市的に悉皆調査を行ってきた分野です。道祖神や庚申塔といった路傍の石仏から、寺社の石灯籠、手水鉢に至るまで、あらゆる石造物を対象として、地域別に調査が行われた結果、約9,500件の石造物が確認されています。

(2) 無形文化財

未指定の無形文化財は、民謡や舞踊です。長谷地域には、江戸時代から歌い継がれる民謡のざんざ節ときんによんによ(もしくはキンニョンニョ)があります。ざんざ節は、馬に荷物を乗せて運ぶ時に歌う馬子唄で、「ざんざ ざんざと馬追いかけて コラ ザンザ…」と唄われます。



読書楼 (高遠町西高遠)



富県小学校資料室の考古資料

(3) 民俗文化財

有形の民俗文化財は約 7,600 件あります。伊那市民俗資料館には、市内から集められた有形の民俗資料が多数所蔵されており、お膳やお椀などの食膳具や、^{せん}鎌や^{しよくせんぐ}箕、^{くわ}田舟、^{たぶね}田車、^{たぐるま}千歯抜き、^{とうみ}唐箕といった稲作や畑作に関わる農具、^{ようさん}養蚕や^{はたお}機織りに関わる道具、^{おの}斧や^{おが}大鋸などの山作業に使う道具など、あらゆる民具があります。高遠町西高遠の池上家で使われた^{はかり}秤や^{ます}枡、^{しょうゆ}醤油徳利、^{どつくり}算盤、^{そろばん}銭箱など、商家ならではの資料もあります。



伊那市民俗資料館所蔵の
有形の民俗文化財

約 1,300 件の無形の民俗文化財のうち、大多数を占めるのは、民話・伝承です。これは平成 24 年(2012 年)から平成 28 年(2016 年)まで行われた古い地名調査(第 4 章で詳述)の際に、地名に伴うものとして集められたものです。富県貝沼に伝わる鴛鴦の話「真菰が池伝説」のように全国各地に伝わる民話と似通った話や、手良^{かいぬま}中坪に伝わる飢きんや疫病に関する伝説「ワランベ山の伝説」など、地域特有の話があります。民話・伝承の主なものを資料編に掲載しています。

(4) 記念物

遺跡は 64 件あり、旧陸軍伊那飛行場といった戦争遺跡があります。また、長野県内にある城館跡のうち、約 10%を市内の城館跡が占めます。そのほかに、道や霞堤^{かすみでい}といった遺跡があります。

動物・植物・地質鉱物は 253 件、12,123 点あります。地質鉱物では、アンモナイトなど 15 種類の化石、10,909 点が散逸せずに、長谷公民館に収蔵されています。植物には、寺社や各地区が大切にしている樹木があります。

(5) 文化的景観

文化的景観は把握が進んでいない種類の歴史文化資源です。美篤川手から伊那(竜東)に続く三峰川の河岸段丘^{だんきゆうがい}の段丘崖には、樹林帯が形成され、緑のベルトのような景観を見せています。この断層崖の斜面樹林は、かつては周辺に暮らす人々が生活資源を手に入れる場でもあり、伊那市の特徴的な景観です。

(6) 埋蔵文化財

埋蔵文化財を包蔵する土地は 487 件あります。試掘調査によって発見した包蔵地や、新たな伊那市誌を編さんするために市内を踏査^{とうさ}した結果、把握できた古墳、塚、城館跡などが、令和 6 年(2024 年)3 月に加わりました。

(7) 地名

市内で 8,376 件を数える地名は、古い地名調査(第 4 章で詳述)によって把握されたものです。手良^{やつで}八ツ手の「鏡石^{かがみいし}」のように、巨石とその周辺を指す局所的な地名や、伊那(竜西)小沢の「小ナギ」や西春近^{おもてぎ}表木の「大ナギロ」、高遠町西高遠の「五丁^{ごちよう}なぎ」、高遠町長藤の「ナギノ下」のように崩壊地を示す「なぎ」が入った地名、伊那(竜東)上新田の「六間割地^{ろっけんわりち}」や「大割地^{おおわりち}」、「四間割地^{よんけんわりち}」のように、水害からの復興を示す地名など、市内には様々な背景を持った地名があります。

5 指定等文化財の管理方法

伊那市には 146 件の指定等文化財がありますが、それらは所有者や保存団体の方々によって大切に保存・管理・伝承されています。また、伊那市創造館や伊那市立高遠町歴史博物館など、指定文化財が展示・保存されている施設もあり、気軽に見学できます。

また、全ての指定等文化財は「文化財台帳」というデータベースで管理されています。「文化財台帳」には文化財の指定区分、指定年月日、所有者のほか、修理履歴などが記載されており、伊那市教育委員会生涯学習課の窓口で必要に応じて情報提供を行っています。

整理番号	第 国01 号	文 化 財 台 帳		伊那市
指 定 (指定番号)	国指定 (00450)	区 分	重要文化財・美術工芸品	
種 別	有形文化財	分 類	考古資料 (縄文土器)	
指定年月日	平成元年6月12日			
名 称	顔面付釣手形土器 ガンメンツツリテガタドキ			
数 量 目 録	1点			
年 代	縄文時代中期中葉	作 者	不明	

所在地 及び 保管場所	伊那市荒井3520番地 伊那市創造館			
所有者	伊那市	保 存 責任者	伊那市教育委員会 (伊那市創造館)	

性質 形状 構造 規模	正面	器高39.5cm、胴の直径16cm。 御殿場遺跡 (伊那市富県 遺跡番号263) 出土	
	側面		
	背面		

記録・記事
伊那路第十一巻一巻別冊 『御殿場遺跡(富県北福地)概報』 (1967年1月、伊那市教育委員会)
伊那市文化財審議委員会 編 『伊那市の文化財(第2版)』 (1982年10月、伊那市教育委員会)

由来・伝統及び参考になる事項
◇出土状況： 昭和41年3月、土地改良事業着工に先立って「御殿場遺跡」の緊急発掘調査を実施したところ、第11号住居址と第12号住居址の切り合った部分から、顔面付釣手形土器が背中を上に向けて、伏った状態で出土した。
◇指定時の経過： 「顔面付釣手形土器」という名称は、平成元年6月21日付けで国の重要文化財に指定されたのを契機にして名付けられたもので、それ以前は「顔面彩色香伊形土器」と命名されていた。
◇土器の文様と特色： 本土器は縄文中期中葉の後半期に位置づけられており、偏年学的にいえば、関東では膳坂式、信濃では、井戸尻式に該当すると思われる。褐色を帯び、良好な焼き方を成している。円筒形の深鉢の上に、三角形の胴体を取り付けたものを骨格的とし、それに、平坦な人面が付いている。器高は、39.5cm、胴部の直径は16.0cmを測り、正面と背面の三方向に円形状の窓がつけられている。上部は顔面を表現し、器体下部の両側には五指を捻じったような状態での文様がつけられている。この様相はあたかも人間がこの土器を抱きかかえているような様子を意匠化した姿であろう。窓の周辺は同心円状に二本の沈線をし、背面は太い粘土紐を用いてU字状と蛇行状の連続渦巻文を貼り付け、同時に、太い沈線を組み合わせて文様構成をしてあり、あたかも、人間の後頭部を表現しているようである。正面にはかなりの油煙が付着し、ピカピカと黒光している。この土器は単なる照明器具だけではなく、素朴で柔らかな顔面は何か神秘感を漂わせ、火の精霊を強調しているようである。女性的な人面を呈し、何か、祝術的用途をもつものとみられ、火に対する敬虔な願いが感受できるものであろう。
『伊那市の文化財(第2版)』より

図. 伊那市文化財台帳の一例

6 埋蔵文化財包蔵地の状況

埋蔵文化財とは、地中に埋蔵されている文化財であり、埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地は「埋蔵文化財包蔵地」(遺跡)と呼ばれています。伊那市内の埋蔵文化財包蔵地は、令和6年(2024年)4月時点で496か所が指定されています(包蔵地一覧は資料編に掲載)。特に天竜川や三峰川とその支流の段丘端部と山際に遺跡が多く見られ、水が得やすい場所を生活の場としていたことがうかがえます。

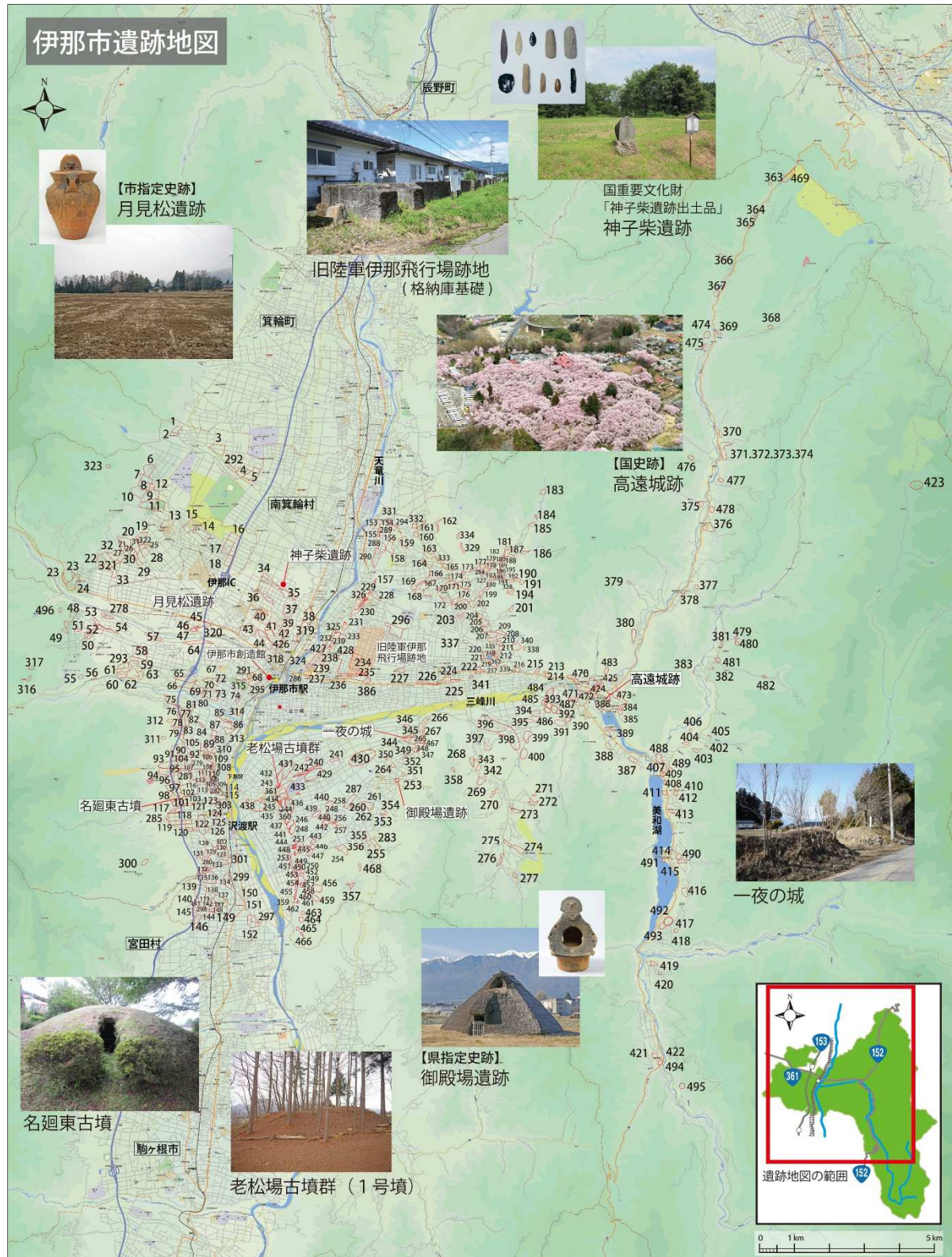


図. 埋蔵文化財包蔵地地図(伊那市遺跡地図)

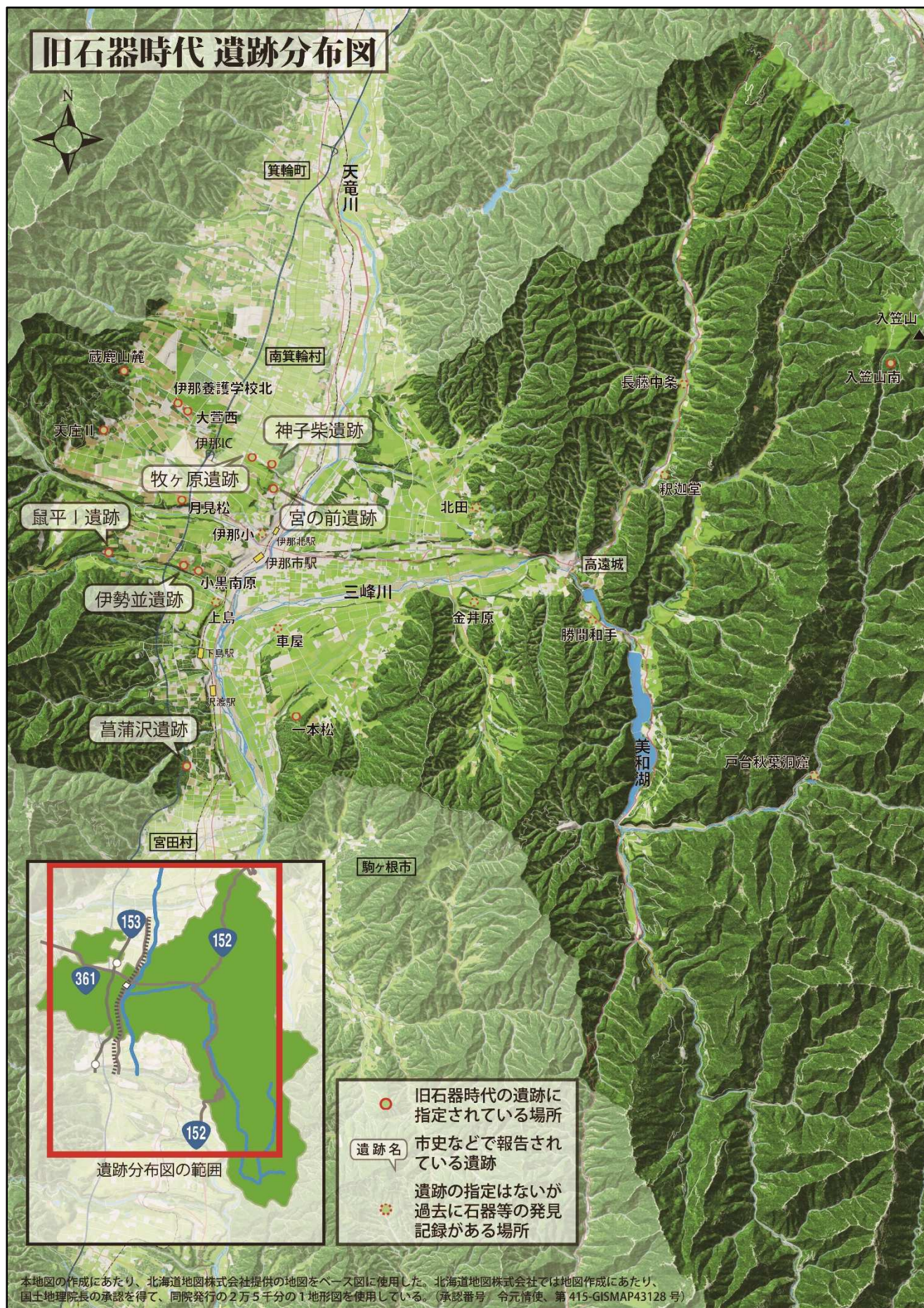


図. 旧石器時代 遺跡分布図

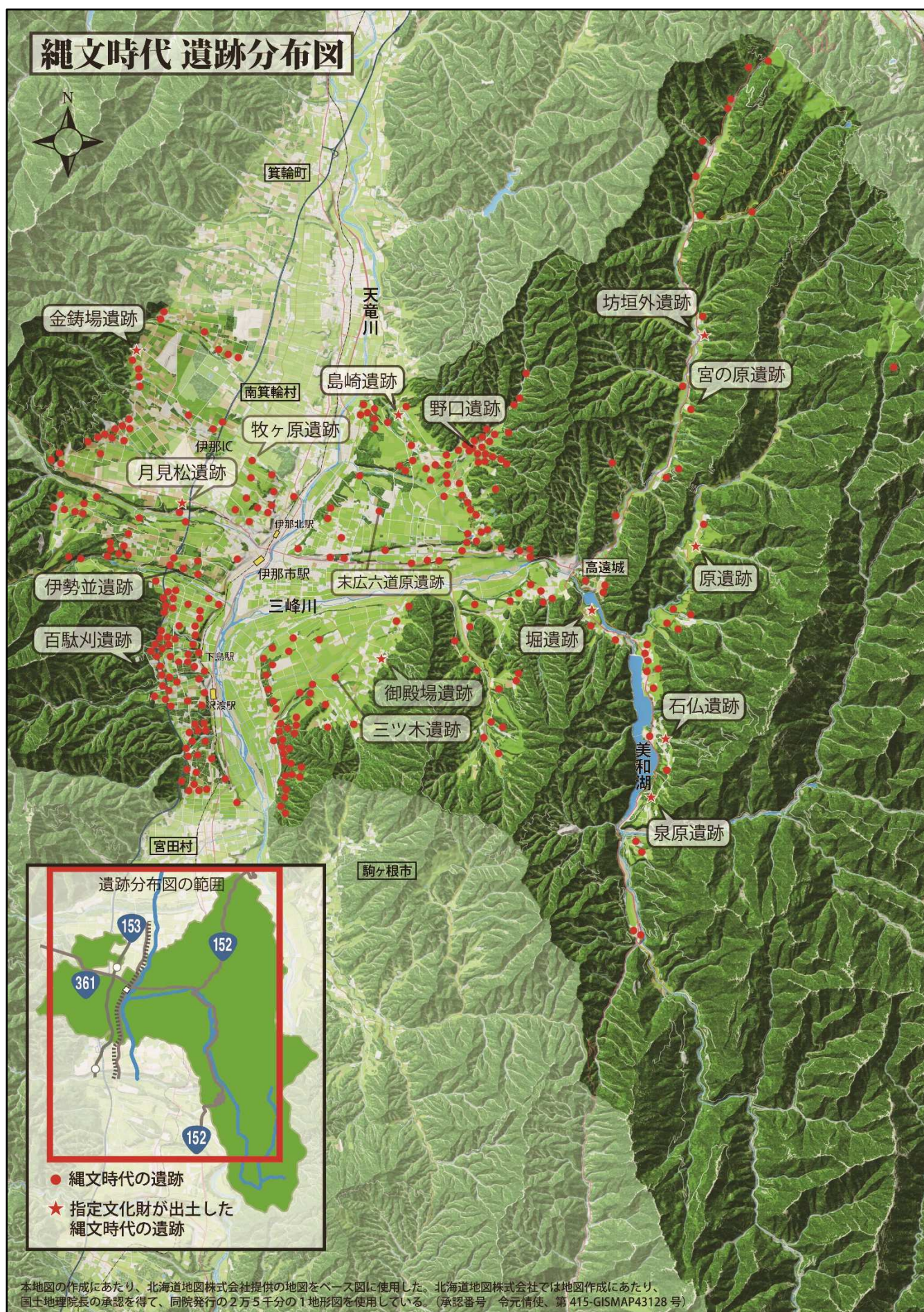


図. 縄文時代 遺跡分布図



図. 弥生時代 遺跡分布図



図. 古墳時代 遺跡分布図

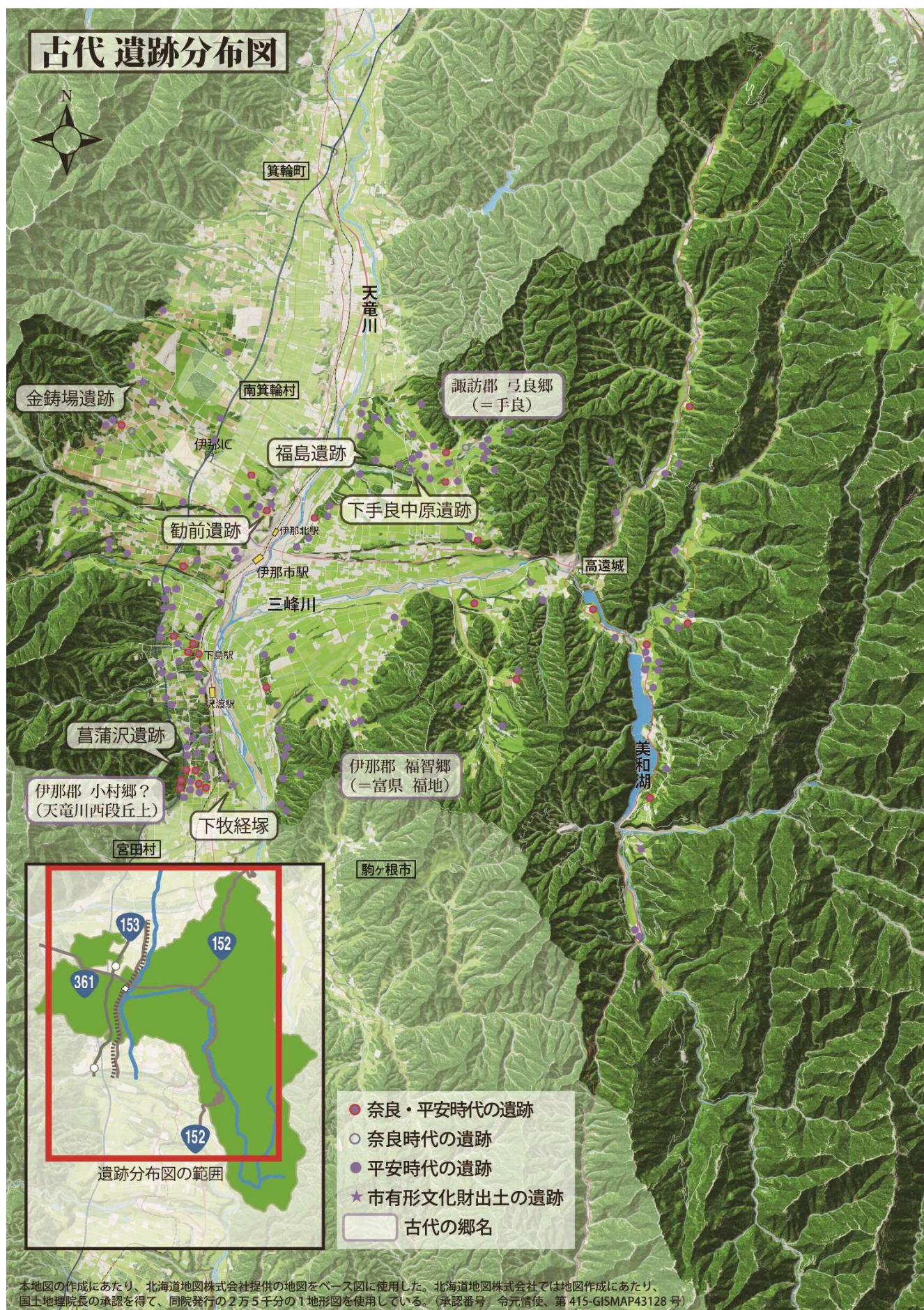


図. 古代 遺跡分布図



図. 中世 遺跡分布図



図. 近世 遺跡分布図

7 南アルプスユネスコエコパークの状況

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、ユネスコが開始した事業です。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取組です。

平成 26 年(2014 年) 6 月に、3 県 10 市町村(長野県伊那市、飯田市、大鹿村、富士見町、山梨県北杜市、韮崎市、南アルプス市、早川町、静岡県静岡市、川根本町)にわたる南アルプス地域が、南アルプスユネスコエコパーク(南アルプス生物圏保存地域)に登録されました。日本のユネスコエコパークは、志賀高原(長野県、群馬県)、白山(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、甲武信(山梨県、埼玉県、長野県、東京都)など現在全国に 10 か所があり、その核心地域や緩衝地域の多くは、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されています。

南アルプス一帯は、3,000m 峰が連なる急峻な山岳地帯であり、かつ国内でも屈指の多雨多湿地帯です。厳しい自然環境の中にも多くの固有種の動植物が生息・生育するわが国を代表する地域です。また、富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに古来より固有の文化圏が形成され、伝統的な習慣、食文化、民俗芸能などを現代に受け継いできた地域でもあります。

今まで南アルプスの山々によって交流を阻まれてきた関係市町村が、「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念のもと、南アルプスユネスコエコパークとして結束し、南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置づけるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図ることを目指しています。

ユネスコエコパークは役割の異なった 3 つの地域で構成されています。

(1) 核心地域(南アルプスユネスコエコパーク 24,970 ha)

原生的な自然環境、貴重な動植物の生息地であり、国立公園の特別保護地区など、自然環境を守らなければならない一番大切な地域。

(2) 緩衝地域(南アルプスユネスコエコパーク 72,389 ha)

環境教育、野外活動、調査研究活動や観光、レジャーに利用できる地域。

(3) 移行地域(南アルプスユネスコエコパーク 205,115 ha)

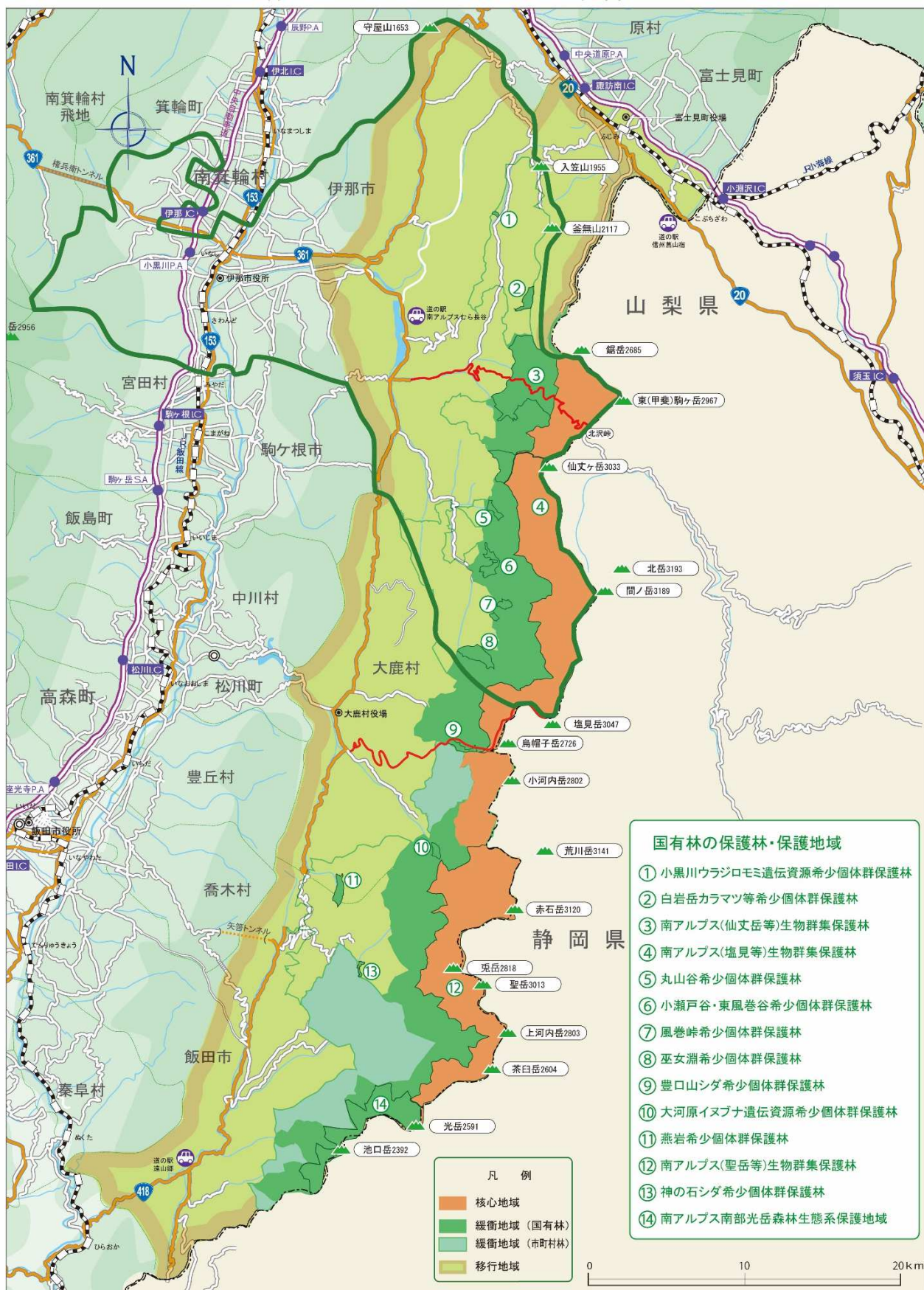
自然環境と調和した農業や歴史、文化を活かしたエコツーリズムなどが行われている、人が暮らしを営んでいる地域。



図. ユネスコエコパークの3つの機能と3つの地域
(参考：『伊那市環境基本計画(中間見直し版)』平成 27 年(2015 年))



移行地域「春の高遠城址公園」



注意) この地図は、参考とした地図をトレースしています。イメージとしてご確認ください。

図. 南アルプスユネスコエコパーク 長野県域ゾーネーション地図

8 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの状況

平成20年(2008年)12月に南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの名で、日本最初の7か所の日本ジオパークの1つとして伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村が認定されました(令和4年(2022年)に富士見町が抜けて以降、3市町村になっています)。令和5年(2023年)11月現在、日本には、日本ジオパーク委員会が認定した「日本ジオパーク」が46地域あります。

ジオパークとは、ジオ(地球)に親しみ、ジオを学ぶ旅であるジオツーリズムを楽しむ場所とされています。山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所です。また、足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物や、地球を丸ごと考えることができる場所です。

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークは、3,000m級の山を連ね、長さ南北100km、東西50kmに及ぶ広大な南アルプスを擁^{よう}しています。南アルプスの大部分を作っているのは、大昔の海底で作られた岩石です。軟らかく削られやすいため、山麓付近は緩やかな傾斜地が多く、その地形を利用して人々が暮らす集落が広がっています。200万年前頃から隆起^{りゅうき}を始めた南アルプスは、年間4mmという世界でも稀^{まれ}にみる速さで今でも少しずつ高くなり、多量の雨に侵食^{しんしょく}されて深い谷が刻まれています。

南アルプス(中央構造線)ジオパークには、南北方向にまっすぐな谷が走っています。この谷は、断層のずれ動きで砕かれたもろい岩石が川に削られてできたものです。長谷地域、高遠町地域には、関東から九州まで続く日本最大級の断層、「中央構造線」の露頭^{ろとう}が観察できます。また、中央構造線に沿ってできたまっすぐな谷は歩きやすく、古来より多くの人が行き交う街道となり、独自の歴史や文化が生まれました。



ぶんぐいとうげ
分杭峠から望む中央構造線の谷



みぞぐち ろとう
中央構造線「溝口露頭」



まくいわ
日本最大の石灰岩のかたまり「幕岩」



南アルプス長谷ビジターセンター

表. 伊那市内のジオサイトリスト

凡例 g:ジオサイト e:自然サイト c:文化サイト					
サイト分類					
No.	g	e	c	名称	位置情報 _行政区等 概要
1	*			守屋山	伊那市 高遠守屋山一帯 新第三紀初期地層群、化石(有孔虫、貝類、植物)。
2	*			入笠山	伊那市 入笠山一帯 秩父帯の地質、入笠山層群で緑色岩(変玄武岩類で塊状溶岩や枕状溶岩を含む)が頂上一帯を広くおおおう、360度のパノラマ展望地。
3	*			甲斐駒ヶ岳	伊那市 長谷 甲斐駒ヶ岳花崗岩質岩体、中期中新世前半の併入し急速冷却し隆起、周辺に熱変成作用。
4	*			仙丈ヶ岳の 氷河地形	伊那市 長谷 藪沢カールと三日月形モレーン、多重山稜が発達、小仙丈ヶ岳カールなど。
5	*			戸台層	伊那市 長谷戸台大橋 周辺 黒瀬川帯相当層で、三角貝やアンモナイトの化石を含む前期白亜紀層。
6	*			中央構造線 溝口露頭	伊那市 長谷溝口 走行は北ないし北北東、傾斜は垂直なし高角度の東傾斜、領家帯と三波川帯の岩石が著しく破碎。
7	*			中央構造線 板山露頭	伊那市 高遠町板山 領家帯非持トータル岩由来のカタクレーサイト化したマイロナイトと三波川帯泥質片岩の接し、わずかな断層ガウジを伴う露頭。
8	*			鷹岩	伊那市 長谷 三波川帯の御荷鉾緑色岩体の中央付近に分布する蛇紋岩体、この緑色岩体には青色片岩をはさみその中にローソン石も含む。
9	*			分杭峠	伊那市 長谷 中央構造線のケルンコルが明瞭、北方へ栗沢川沿いにケルンコル、ケルンバットが顕著、中央構造線沿いの北方への断層地形の景観。
14	*			塩見岳の 緑色岩	伊那市 長谷 白亜紀付加体の緑色岩。
30	*			仏像構造線 唐沢露頭	伊那市 長谷 仏像構造線の唐沢における断層とその両側の秩父帯と四万十帯との地質を明らかにした。
e05		*		南アルプス林道 沿いの 石灰岩植物	伊那市 長谷 石灰岩の露出する林道沿いに、シナノコザクラ、シライワシャジン、トダイハハコなどの希少植物が自生する。
c08			*	南無妙法蓮華經 の碑	伊那市 高遠町西高遠 鉾持棧道の大正14年の道路改修の際に、崖側の高遠花こう岩から発見された「お題目」。崖から取り出された後、現在の位置に設置された。
c09			*	建福寺	伊那市 高遠町西高遠 1824 臨済宗妙心寺派の寺院。慶長年間に創建。保科家の菩提寺で、武田勝頼(諏訪御料人)の母とされる墓もある。高遠産の青石(輝緑岩)に刻まれた西国三十三所観世音菩薩や願王地藏尊は、高遠石工の名工守屋貞治の作品。
c10			*	美和ダム	伊那市 高遠町勝間 1673 仙丈ヶ岳を源に持ち河床勾配が急な三峰川は、洪水時に多量の土砂を伴って流れ下り、沿岸地域のみならず天竜川流域まで甚大な被害を及ぼしていた。そのため美和ダムには、洪水調節機能の他、多量の土砂を排出する湖内堆砂対策施設や土砂バイパストンネルが整備されている。

凡例 g:ジオサイト e:自然サイト c:文化サイト					
サイト分類					
c11		*	熱田神社	伊那市 長谷溝口	創建は不明。三峰川や支流の氾濫を大蛇によるものと考え、大蛇退治の伝説のある日本武尊をしのいで尾張の熱田神宮の形影を迎えて祀ったのが始まりと伝えられている。現在の本殿は、宝暦9年～13年に改修された。大工棟梁「高見善八」と彫物師「関口文次郎」による、日光の流れを汲む特殊な建築手法と精巧な彫刻技術、色彩が素晴らしく「伊那日光」と言われている。
c12		*	三峰川発電所	伊那市 長谷黒河内 2895	南アルプスからの豊富な水源と流れを利用した水力発電所。三峰川の本流と、その支流12ヵ所の取水所より水を取り入れ、第一発電所およそ260m、第二発電所およそ330mの落差を利用し発電。
c13		*	お鷹岩井筋	伊那市 長谷溝口	河川勾配を利用した農業用水路。特に、災害の少ない段丘上へ水を引くため、江戸時代に伊東伝兵衛によって開発されたが、緑色岩の硬い岩盤(お鷹岩)を掘り抜くなどの難工事が続き、完成までに36年も要した。
c14		*	中尾座 (中尾歌舞伎)	伊那市 長谷中尾 363- 5	中央構造線の弱線に沿って浸食されてできた谷沿いの街道(秋葉街道)を通り、江戸時代の明和4年に伝わったとされる農村歌舞伎。以後、地域の人々によって伝承され、平成8年には伝統文化保存伝承施設として「中尾座」が落成した。
c15		*	高遠城跡	伊那市 高遠町東高遠	三峰川と藤沢川の合流点にある段丘先端部に築かれた平山城。河川敷上80m、南北の河川が惣堀の役割を果たす天然の要害地。
c16		*	御山の遺跡 (常福寺)	伊那市 長谷溝口869	常福寺の脇、御山と呼ばれる小高い丘の上に後醍醐天皇の皇子宗良親王の御墓とされる無縫塔が安置されている。宗良親王は南北朝時代の*興国5年に信濃大河原(現大鹿村)に入り、以後、中央構造線の谷を行き来しながら北朝軍との戦いをを行った。
c17		*	秋葉街道 (中尾-市野瀬の 古道)	伊那市 長谷中尾- 長谷市野瀬	中央構造線の弱線に沿って浸食された谷はいつしか人々が行き交う街道となり、江戸時代の後半には、静岡県浜松市にある火伏の神「秋葉神社」へ詣でるための信仰の道として賑わった。街道沿いには、現在でも道標や常夜灯、旅の安全を祈願する石仏等が数多く残っている。
c18		*	高座岩 (法華道)	伊那市 高遠町荊口	法華道は、富士見町若宮から入笠山麓、三義の赤坂を経て長谷非持に至る道(全長約22km)で、信濃への法華宗(日蓮宗)伝来を伝える歴史の道と言われている。御所平峠の南には、身延山第9世日朝上人が岩上で従者に法を説いたという高座岩(戸台層に属する礫岩)がある。